

18 灯のつどい



ろうそくの小さな炎を見つめながら、思いを共有しよう！

- 目的：協調性を高める。
- 対象：小学生(高)～
- 人数：200人程度
- 時間：1時間
- 経費：1人あたり10円(ろうそく代等, 引率者も含む)
- 準備
 - <団体>
 - ・進行上の係分担, 練習, 音楽ソフト(BGM), 交歓会(2部)で必要な道具
 - ・ゲーム, 歌, グループごとの出し物等の準備
 - <自然の家>
 - ・使用道具の準備

灯のつどいのすすめ方

●使用道具

燭台，ろうそく（大・小），ろうそく受け（人数分），ライター，ポータブルアンプ（CD，テープ対応），マイク，ブルーシート

●展 開

- ① 用具等の準備，集合，人員確認，健康観察
- ② 活動方法や注意事項の説明（リハーサル）
- ③ 活動
 - ・ 1部(迎え火の式)→2部(交歓のつどい)→3部(送り火の式)
 - ※別紙「灯のつどいの展開例」を参照
- ④ 人数確認，後片付け
- ⑤ 活動のまとめ

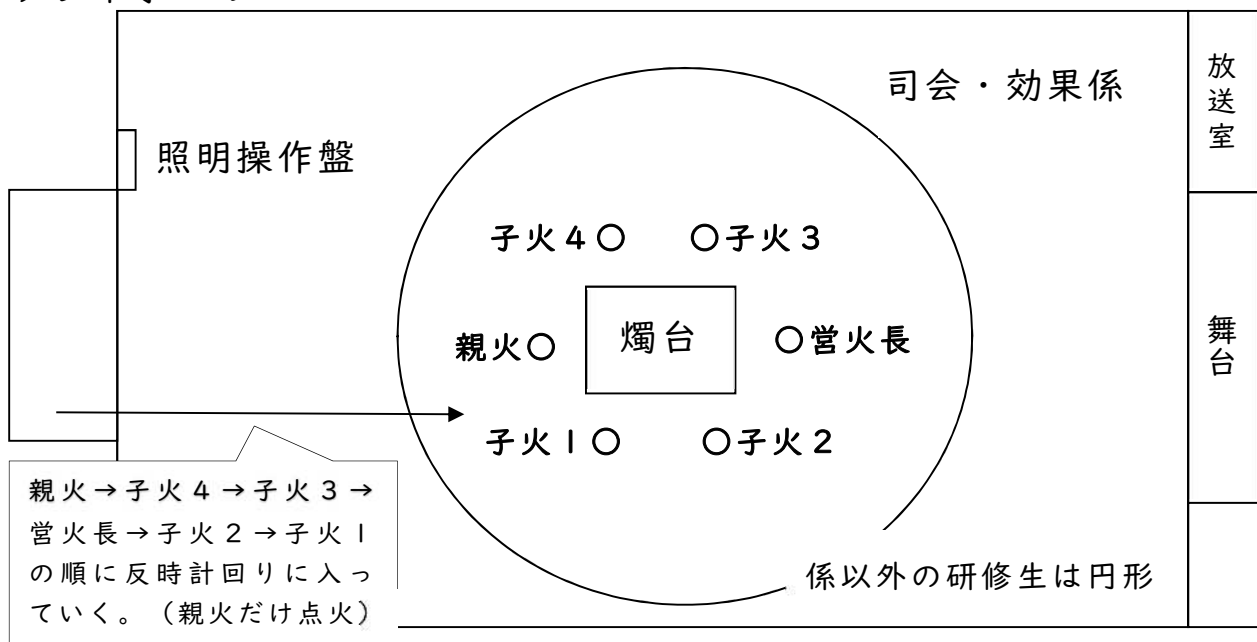
●留意事項

- ① 火気の取扱いには十分注意する。
- ② やけどに注意する。（火やトーチの取扱い）
- ③ 振り返り(視点)
 - ・ 協調性，仲間との交流など

●活動のしかた ※灯のつどいの隊形と入所前の係分担

役 割	担 当	活動内容
営火長(1人)	団体の代表者	第1部と第3部を行う。
親火(1人)	研修生	
子火(4人)	研修生	
司会(1人)	引率者また	進行を行う。
効果係(1人)	は研修生	司会者の補助を行う。照明と音響を調節する。
設営係(6人)	研修生	当日に燭台等の準備をする。

プレイホール



灯のつどいの展開例

※ 各係のセリフは、各団体の実態に合わせてアレンジしてください。
特に、分火の際の子火のセリフなどは、学校訓や学級目標などを入れてみましょう。

準備

- 参加者入場(静、動、静の流れについて、事前に十分指導しておく)
 - 静かに燭台を丸く囲む形で入場する。一重<50人<二重円
 - 全員にろうそく(小)を配り、ろうそく(大)は中央燈火台にさす。
 - 営火長・親火・子火はプレイホール入口でろうそく(大)を持ち、入場の合図を待つ。
親火のろうそくだけ火をつけておく。
- ※ 親火, 子火4, 子火3, 営火長, 子火2, 子火1の順に並び待機
- ※ プレイホール消灯

第1部～迎え火の式

1 開会のことば 灯入場

- 司会者

ただ今から灯のつどいを始めます。この暗闇の中に輝く神秘的な1本の灯を皆さんと一緒に静かに迎えたいと思います。 灯の入場です。

(BGMとともに親火・子火4・子火3・営火長・子火2・子火1の順に入場しキャンドル台の周りに並ぶ)

- 司会者

営火長は点火の宣言をお願いします。

- 営火長

親火は、キャンドル台の頂上の1本にあかりをともしてください。 (親火が燈火台中央の1本に点火)
--

2 灯にささげることば

- 司会者

親火は、灯にささげることばをお願いします。

- 親火

私たち〇〇学校〇年生〇人は、ひとつのあかりを囲んでいます。中央で明るく輝く灯を見つめながら、これまでの生き方や、これからの生活を考え、自分自身を見つめ直したいと思います。そして、今夜のつどいが楽しく心に残るすばらしいものとなるように1人1人が協力していくことを誓い、灯にささげることばとします。 令和〇年〇月〇日 研修生代表 〇〇 〇〇
--

3 誓いのことば

- 司会者

では、灯の輪を広げたいと思います。親火は子火に灯を分けてあげてください。

- 親火

強い心と体の持ち主になるために

(親火は子火1に点火)

- 子火1

どんな苦しみにも負けず、最後までやり抜くよう努めます。

- 親火

豊かな心の持ち主になるために

(親火は子火2に点火)
- 子火2

私たちは、自分のことだけでなく、相手の立場も考え、親切で思いやりのある人間になるよう努めます。

(営火長の前で一礼して、火を分けて次へ)
- 親火

学校や地域の良きリーダーになるために

(親火は子火3に点火)
- 子火3

私たちは、良きリーダーとして、何事も進んで実行し、下級生の手本になるように努めます。
--
- 親火

1日1日全力をつくすために

(親火は子火4に点火)
- 子火4

私たちは、1日1日を反省し、よく考え、計画を立て、未来に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすよう努めます。

4 燭台へ点火

- 親火

美しい灯の輪をもっと広げていきたいと思います。子火の皆さんは、燭台のろうそく全てにあかりを入れてください。

(子火は燭台のろうそく全てに点火)

5 迎え火のことば

- 司会者

ここで、営火長に迎え火の言葉をお願いします。

- 営火長

今夜こうして、皆さんと一緒に灯を囲めることをうれしく思います。このつどいの中で、お互いの友情をさらに深め、お互いの良い点をより多く見つけてください。そして、このつどいが皆さん1人1人の胸の中に、すばらしい思い出として残ることを願って、迎え火の言葉とします。
--

6 分火

- 司会者

それでは、この灯を周りにいる皆さんにも分けてあげましょう。営火長、親火、子火の皆さんは、自分の近くの人に灯を分けてください。
--

(営火長、親火、子火は周りの参加者に分火し、分火された参加者はとなりの人に分火し、参加者全員のろうそくに火をつける。)

7 司会者からの呼びかけ

- 司会者

1本の小さな親火から、今〇〇本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪を作っている小さな灯、これは、人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるかな昔から、絶えることなく大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえる灯です。その灯を目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。 自分の身をすり減らしながら、周りを温かく、明るく照らすろうそくは、子どもを育てる親の姿に似ています。子どものために尽くしながら毎日過ごされているおうちの方々を大切に、思いやりのある子どもであってほしいと思います。 家族のことを考える時、人の心は最も素直になると言われます。その素直な気持ちを胸深くしまう意味でみなさんのろうそくの灯を静かに消してください。 納火! これで第1部の迎え火の式を終了します。

(参加者は自分のろうそくを消す。親火・子火は自分のろうそくを消す。スタンプの邪魔になる場合は、中央燭台はブルーシートごとプレイホールのすみに移動し、第2部に備える。)

第2部～交歓のつどい

ゲーム、ダンス、歌、グループごとのスタンツ(出し物)など参加者全員がふれあい楽しむ場とする。

第3部～送り火の式

灯のつどいの締めくくりとして、静かな雰囲気の中で、別れを惜しみ、友情を確かめあう儀式である。

(燈火台を中央に移動する)

1 送り火のことば

●司会者 第3部の「送り火の式」に入ります。第1部の終わりの時の隊形に並んでください。

●司会者 それでは送り火の式を始めます。はじめに営火長に送り火のことばをお願いします。

●営火長 灯を見つめて、静かに自分を振り返った迎え火の式、友だちと楽しく過ごした交歓のつどいも終わり、いよいよ送り火のときを迎えました。
灯に誓った素直な心や、両親と周りの人々への感謝の気持ちを忘れず、明日からの生活の中で実行にうつしていきましょう。そして、この研修で学んだことをもとに、皆さん一人一人が大きくたくましく成長してくれることを願って、送り火のことばとします。

2 納火

●司会者 それでは、子火の皆さんは燈火台の方に進み、中央の1本のろうそくを残して、ほかの全ての灯を納めてください。

(子火は、燈火台中央の1本だけ残して他のろうそくを消す。)

3 司会者からの呼びかけ

●司会者 館内に広がった灯は、今、私たち全員の心をまとめて中央の燈火台の1本にかえり、一段と輝きを増したかのようです。ここ南薩少年自然の家の同じ屋根の下で、食事をともにし、語り合った仲間とのふれあい、出会いを大切にしていきましょう。
友情は喜びを2倍にし、悲しみを半分にすると言われます。ここに集まった仲間達一人一人が、目標に向かってお互いに支え合い、励まし合ってこそ、本当の友情が生まれるのです。
そして、一本の小さな灯のように、周りを明るく温かく照らしていきましょう。
限りなき可能性を秘めた皆さんの今後の活躍を期待して、ここ南薩少年自然の家の3つの言葉「広い心 強い体 篤き志」を贈ります。
今夜のこのつどいも終わりに近づきました。皆さん一人一人が心の灯をいつまでも燃やし続けることを祈りながら、最後の灯を送りたいと思います。

●司会者 今日の灯のつどいの感動を込めて、みんなで「〇〇〇」の歌を歌いましょう。
(全員で歌を歌う)

●司会者 親火は、最後の灯を納めてください。
(親火は最後の1本のろうそくの火を消す)

4 閉会のことば

●司会者 以上で、灯のつどいを終わります。親火や子火の皆さんはリハーサルや準備など皆さんの代表として頑張ってくれました。温かい感謝の拍手をお願いします。

(燈火台、シート、ろうそくの後片付け後、事務室へ終了の連絡)